

Q 10 私の家の近所では、みんな子どもを有名中学校に入れるために、夜遅くまで進学塾に通わせています。私の子どもも進学塾に通わせるかどうか迷っているのですが、どうしたらいいのでしょうか？

A 小学校段階から行き過ぎた塾通いとならないよう、配慮が求められます。

子どもが何か一つの目標に向かって勉強するということが自体は、大切なことだと思います。ただ、仮にそうだとしたとしても、机にかじりついて勉強ばかりしてはだめだと思います。長い人生なんですから、子どものころに様々な経験をした方が将来的にはプラスの面が大きいんじゃないでしょうか。子どものころは、テクニックだけのペンシルのような細いビルを完成させるよりも、布石（基礎工事）のしっかりした土台を築いておくべきだと思います。土台がしっかりしていれば、将来安定したビルが建てられるし、地震が来ても大丈夫ですから。

勉強ばかりして、親子がテストの成績に一喜一憂していたのでは、家庭が暗くなってしまう。果たして、家族との触れ合いや家庭の団らんを犠牲にするような状況下で、進学塾に行かせることがよいことなのかどうか、よく考えていただきたいと思います。小学生はまだ心も体も発達途中にありますから、夜遅くまで塾に通って寝不足が続くと、心と体のバランスが崩れて、健全な成長・発達に悪影響を与えかねません。わずか10代の前半で、伸びきったゴムのようになってしまう必要はないんじゃないでしょうか。

むしろ、子どものうちは、友だちや近所の人たちといろいろな経験を積んだり、自然体験をすることが必要だと思います。また、家事の手伝いなどをするのも大事なことです。今年6月の生涯学習審議会答申「生活体験・自然体験が日本の子どもの心をはぐくむ」にも書いてありますが、平成10年度に文部省が全国の小・中学生約1万1,000人を対象に行った調査の結果では、生活体験、

自然体験が豊富な子どもやお手伝いをする子どもほど、道徳観・正義観が身に付いているという傾向が見受けられます。子どものころから勉強ばかりして、いわゆる頭でっかちの大人になるより、個性豊かで人間味にあふれるような大人になってほしいと思います。

これからは、どこの大学を出たか、ではなく、何を学んだか、が大事な時代になります。既に企業では、学歴よりも人としての魅力や新しいものの考え方、判断する力などを求める傾向にあります。このように学歴社会が変わってくれば、小学校段階からの受験勉強に対する考え方も、自ずから変わってくるのではないのでしょうか。

もっとも、塾の分かりやすい指導で、学校の授業が分かるようになったという話や、勉強に興味を持てるようになったというような話はよく聞きます。また、自然体験や社会体験等のプログラムを取り入れているような塾も増えてきているようです。ただ、その場合でも、子どもたちの通塾が長時間に及んだり、夜遅くなったりするような行き過ぎた塾通いは、心身の健全な発達によくないのではないかと思います。むしろ、子どものためには、あたたかい雰囲気の中で明るい家庭を築いていくことこそが大事なのではないのでしょうか。